

小高連携授業で共に学び交流【白糖】

【白糖】白糖高校（佐野住夫校長）は 19 日、同校で町立白糖学園（須藤光秋校長）と小高連携授業を行った。「総合的な探究の時間」の一環で、白糖学園の 5 年生 22 人が同校を訪れ、高校 1 年生 18 人と交流を深めた。

同授業は、町の産業や文化などについて、世代を超えて学び、地域課題解決に向けた主体的、協働的な学びの実現などを目的に、2022 年から毎年実施している。

この日、高校生はふるさとの文化や歴史を紹介しようと、白糖に関わりの深い人物や歴史、伝統文化などを題材に、取り札の原画から読み札まで、すべて手作りの「しらぬか郷土かるた」を披露。児童らとかるたを楽しみながら、町の歴史や特産品などについて一緒に学んだ。小学生は、4～5 人を 1 グループとし、授業で調べた白糖の魅力を、自分たちで作製したパワーポイント資料を使って紹介した。

春田優珠さん（小 5）は「みんな優しく、かるたも楽しかった。また遊びたい」と笑顔。長谷華瑠美さん（高 1）は「とても楽しかったので、こういった交流機会をもっと増やしてほしい」と話していた。（森崎博史）



[写真／手作りかるたで交流を深める生徒と児童ら]